

昭和49年度に発生した森林害虫と 最近10年間の発生状況

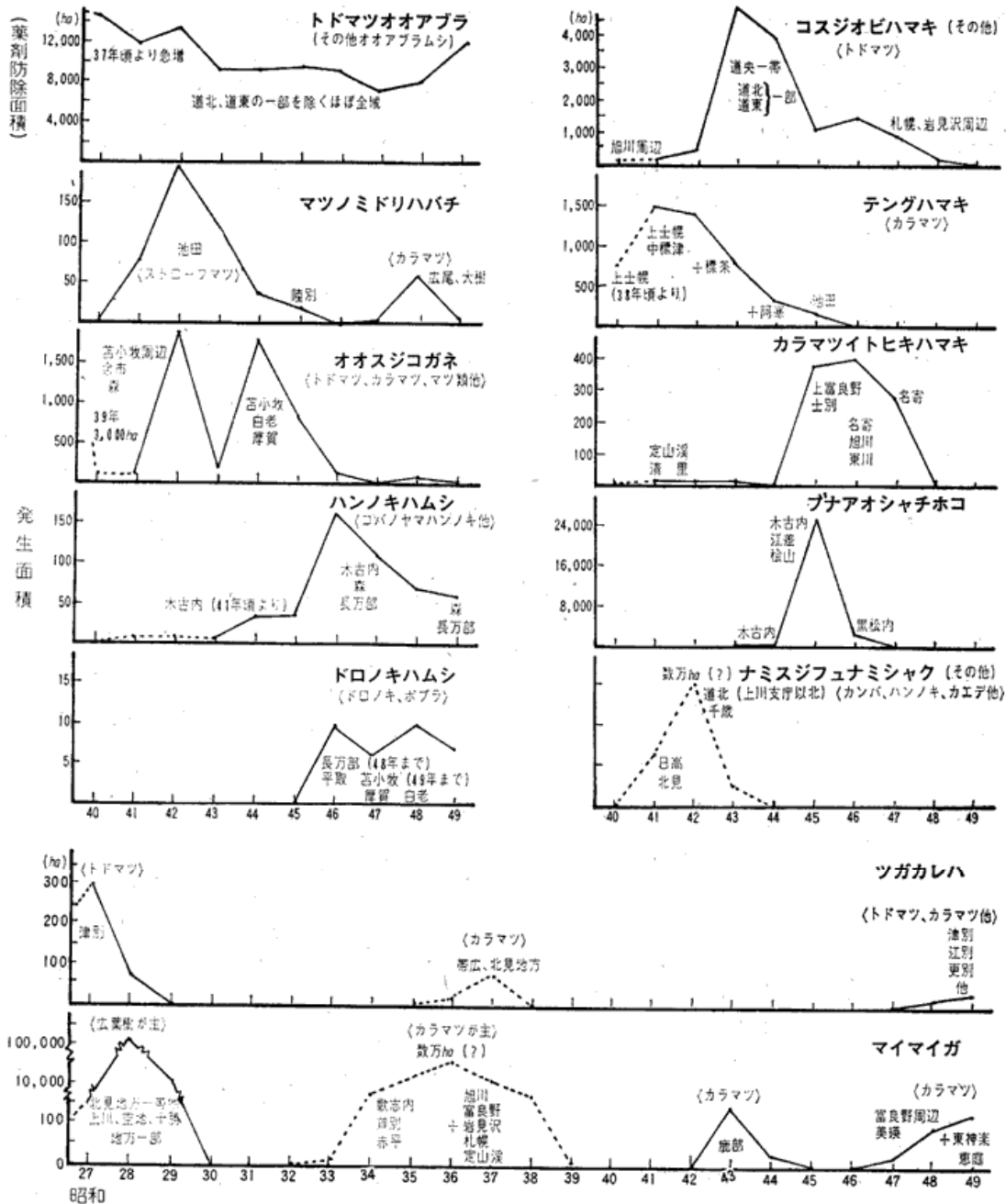
やまぐち ひろあき こいずみ ちから
山口博昭・小泉力
(1075. 2. 14 受理)

1. 昭和49年度の害虫発生状況

表-1 49年度森林害虫発生概要

害虫名	樹種	発生地(面積)	備考
トドマツノハダニ	トドマツ		名地の苗畑, 特に報告なし
イヌガヤワタカイガラムシ	イチイ	札幌市	庭園樹
コナジラミの1種	シヤクナゲ	札幌市	庭園樹
ヒメカサアブラ	トドマツ	乙部署	苗畑, 180,000本
カサアブラの1種	ハイマツ	札幌市	庭園樹
エゾマツカサアブラ	エゾマツ		各地のエゾマツ幼齢造林地
カラマツカサアブラ	カラマツ グイマツ		道央, 道東地方に被害散見
オオアブラムシ類	トドマツ エゾマツ アカエゾマツ	札幌局 4,066 ha(トドマツ) 函館局 { 529(トドマツ) 3(アカエゾマツ) 旭川局 365(トドマツ) (アカエゾマツ) 帯広局 751(トドマツ) (アカエゾマツ) 北見局 { 24(トドマツ) 72(アカエゾマツ) 道有林 { 3,301(トドマツ) 1,101(アカエゾマツ) 民有林 { 1,448(トドマツ) 96(アカエゾマツ) 計 (11,756 ha)	トドマツオオアブラの被害が最もいちじるしいが, 道央, 道東にかけてアカエゾの被害も多い。防除面積, 11,085 ha-
	カラマツ	道有林 (20 ha)	20 ha 防除
トドマツノタマバエ	トドマツ		報告なし
スギタマバエ	スギ		道南スギ造林地に散見
マツバノタマバエ	アカマツ		報告はないが, ひき続き七飯など道南の一部に発生しているとみられる
クリタマバチ	クリ		新しい発生地の報告なし
オオアカズヒラタハバチ	ヨーロッパトウヒ	倶知安林務署 (58 ha)	目名, 蘭越, 昆布, ニセコ, 岩内, 倶知安, 小沢。昭和17年にも大発生した地域
マツノミドリハバチ	カラマツ	大樹署 (6.5 ha)	
ハバチの1種	シラカバ	南幌向町 (9 ha)	
マツツマアカシムシ	クロマツ		報告はないが, 江差, 松山, 東瀬棚, 厚賀, 静内, 余市の各署の飛砂防備保安林に発生しているとみられる
マツノシンマダラメイガ	ストロープマ	厚賀署 (1.8 ha)	
エゾマツノメイガ (ワモンメイガ)	トドマツ アカエゾマツ	朝日署 (3,016 m ²)	種名未確認。苗畑, 47年秋~48年春まき付苗 384,700本枯死
マツヒメハマキ	ストロープマツ他マツ類		報告なし
コスジオビハマキ その他ハマキガ類	トドマツ	当別, 岩見沢, 滝川, 美深林務署 (97 ha)	昭和40年ころより始まった大発生も一応終熄
カラマツヒメハマキ	カラマツ		報告なし
カラマツイトヒキハマキ	カラマツ		報告なし

害虫名	樹種	発生地(面積)	備考
テングハマキ	カラマツ		報告なし
クロカクモンハマキ	コバノヤマハシノキ	蘭越町 (1 ha)	
ハマキガ類	イボタ	札幌市	庭園樹
カラマツツツミノガ	カラマツ		報告なし
マイマイガ	カラマツ	東神楽町 (20 ha) 美瑛町 (11 ha) 上富良野町 (23 ha) 中富良野町 (23 ha) 富良野市 (50 ha) 計 (127 ha)	46年よりひき続き、局部的に大発生。面積拡大。東神楽、カラマツヤツバキクイの二次被害で約 50 本枯損、防除面積 12 ha
	カシワ	恵庭市	
ツガカレハ	トドマツ カラマツ ヨーロッパ トウヒ リギダマツ	浦河署 (0.1 ha) 津別署 (2 ha) 津別町 (21 ha) 更別町 (4 ha)	浦河署 (リギダマツ) 津別署 (トドマツ) は苗畑の防風垣 江別、津別町 18 ha 防除
オビカレハ	ヤナギ類他 葉樹カラマツ	札幌市, 岩見沢市, 美瑛市	その他周辺地域で被害めだつカラマツ食害例発見
クワゴマダラヒトリ	クワ他	岩見沢市	
ドクガ	灌木類他	札幌市, 岩見沢市, 美瑛市	
シヤクガの1種	トドマツ	中標津署 (14 ha)	46~48年植の造林木。新梢部を食害。被害本数約 6,700 本
シヤクガの1種	ヤチダモ	小清水署 (2 ha) 斜里署 (13 ha)	防風林
キマダラコウモリ	スギ他		道南スギ造林地に散発
トドマツミキモグリガ	トドマツ		各地で散見
カラマツミキモグリガ	カラマツ		道東のカラマツ林に多い
コスカシバガ	サクラ		報告はないが、札幌などの公園樹に継続発生
ヒメコガネ(?)	トドマツ アカエゾマツ	朝日署 (23,389 m ²)	苗畑 223,000 本枯死
スジコガネ, オオスジコガネ	トドマツ	白老町 (56 ha)	20 ha 防除
コガネムシの1種	ヤチダモ	札幌署 (96 ha)	防風林, 葉を食害
ハムシの1種	ヤチダモ	剣淵町 (50 ha)	
ハンノキハムシ	ヤマハンノキ他	森町 (54 ha) 長万部町 (7 ha)	両町計 47 ha 防除道南地方では 41 年ころより連年発生
ドロノキハムシ	ポプラ	白老町 (2 ha) 苫小牧市 (5 ha)	全城防除
イタヤハムシ	イタヤカエデ他	倶知安林務署	倶知安周辺一帯数百 ha
アカタマゾウ	ヤチダモ	北見署 (21 ha)	防風林, 葉を食害
カラマツヤツバキクイ (マツノオオクイ)	カラマツ	神楽署 (3 ha) 風連町 (1 ha) 下川町 (5 ha)	神楽は採種林, 間伐後の被害
ヤツバキクイその他穿孔虫	エゾマツ トドマツ アカエゾマツ	弟子屈署 (13 ha) 白糖署 (118 ha) 津別署	弟子屈, 白糖は風倒地周辺。弟子屈は土場丸太 740 m ² 薬剤散布
ヤツバキクイ	アカエゾマツ	美瑛町	緑化樹用移植木
トドマツキクイ	トドマツ	神楽署 (1 ha)	
ヤチダモノクロキクイ	ヤチダモ	鷲川署 (14 ha)	防風林
キクイムシ類	ナラ, セン	白糖署	貯木場, 素材



図一 昭和40～49年の10年間（一部27～49年）における主要害虫の発生状況

- <注>
1. 点線は発生面積不明。
 2. +の記号は拡大された発生地を示す。
 3. 北海道森林病虫害報告1～10号（昭26～35），昭和37～38年度森林害虫発生状況（昭37～45は林試道支場年報，昭46～49は北方林業），昭和44～48年度北海道森林病虫害被害並びに防除状況報告書（北海道林業経営協議会）その他の資料より。

主要種の発生動向については後でふれるとして、49年度における発生の特徴点についてかんたんに述べてみると、次のとおりである。

1) 幼齡造林木を加害する各種オオアブラムシ類の被害は、いぜんとして発生虫害の主体をなし、防除面積はふたたび1万haをこえた。このうち、従来のトドマツオオアブラに加えて、アカエゾマツに対するエゾマツオオアブラの被害地の割合がかなり高くなっている。

2) コスジオビハマキを優占種とするトドマツのハマキガ類の大発生は、岩見沢、当別などごく一部の地を除くと終熄、その他カラマツを加害するハマキガ類も本年度は全く発生していない。これに対し、マイマイガ、ツガカレハなどの大蛾類の密度が増大、46年ころから始まる美瑛、富良野地方におけるマイマイガの局部的な大発生は、区域も拡大され、さらに発生地がひろがる傾向をみせている。ツガカレハは面積的には大きくないが、道央から道東にかけ散点状に密度の異

常増加がみられ、また札幌、岩見沢地方ではオビカレハの被害も目立ち、広葉樹のほかカラマツを食害している例が発見されている。

3) 苗畑の害虫としては、近年トドマツノハダニ以外大きな発生はみられていないが、久しぶりにネキリムシ(コガネムシ幼虫)とエゾマツノメイガ(種名未確認)のかなりの被害が報告されている。

4) 従来、全く被害発生の記録のない害虫として、シャクガ類の1種がカラマツの列状間伐跡に植栽されたトドマツ幼齢造林地に発生、新梢部を丸坊主に食害する被害を与えている。このほか、かつて井上(北海道林試時報25号,1940)によって、本道新記録と報告されているアカタマゾウによるヤチダモの被害が発生している。

5) 庭園樹など緑化樹の害虫の同定依頼、防除法の紹介が多かったことは、最近の時勢の反映と思われる。

2. 最近10年間の主要種の発生状況

詳細は別の機会にゆずり、ここでは図-1を中心に要点のみ記しておく。

1) この10年間、広範な地域で恒常的な発生を続け、薬剤防除が最も広く行なわれてきたのはトドマツオオアブラといえる。本種の被害は、造林地の増大とともに昭和34年ころから急激に増加しはじめているが、薬剤防除も37年あたりから本格化し、39、40年には1万5千haあるいはそれ以上に達した。以後やや減少、43年よりはエゾマツオオアブラによるアカエゾマツの被害地も加わって、あわせて1万ha前後の線をたどっている。発生地は、道北、道東の一部を除くほぼ10年生以下の全造林地とみてよい。その他カラマツオオアブラの被害もあるが、生育におよぼす影響が比較的小さいことから、薬剤防除はほとんど実施されていない。

2) 次いで特筆すべきものは、コスジオビハマキ、トドマツアミメハマキを主体とするトドマツのハマキガ類の大発生であろう。昭和40年ころより旭川周辺地域を中心に始まるこの大発生は、43年には札幌一帯張以東の道央一帯、道東、道北へとひろがり、トドマツ人工壮齢林を主体に、軽微な被害に終わった天然林も含めて、発生面積は約5,000haに達した。その後道南の一部にも発生をみたが、47年より発生の中心地である旭川、芦別地方をはじめとして、各地で漸次密度が減少、10年間に及ぶ大発生も一応終熄するに至っている。

3) この間は、カラマツその他のハマキガ類の大発生も相次ぎ、図に示されたテングハマキ、カラマツイトヒキハマキのほか、カラマツヒメハマキが42~46

年、マツ類を加害するマツヒメハマキが40~46年ころ各地で密度が増大、散点的に異常発生をしており、またナミ類を食害するウスアミメハマキが47年に、帯広地方の耕地防風林200haにわたって大発生している。食葉性の小蛾類としては、このほかナミスジフユナミシャク類(図参照)、カラマツツミノガ(42年道東を中心に500haその他)などの大発生もみられている。

4) このような小蛾類の活発なうごきに対し、大蛾類ではやや特異的なブナアオシャチホコの大発生を除くと、重要害虫であるツガカレハ、マイマイガともに影をひそめたように低密度で経過し、被害らしい被害は、後者が43年、鹿部で局所的に発生したくらいであろう。ただここで興味ある現象は、この20年余にわたる発生経過をみると、ツガカレハ、マイマイガの両種は、それぞれ規模は異なるがほとんど期を同じくして大発生していること、また前回の発生が終った39、40年ころから各種ハマキガ類の密度が増大、大発生が相次いで起り、これらがすべて終熄する47、48年からふたたび両種の異常増殖がみられはじめたことである。これがたんなる偶然なのか、必然的因果関係があるのか、今後の検討に待ちたい。

5) その他の食葉性害虫では、図に示したマツノミドリハバチ、オオスジコガネ、ハンノキムシ、ドロノキハムシが、それぞれほぼ同じ地方で数年間にわたって継続して大発生している。マツノミドリハバチはストロブマツ、ハンノキハムシはコバノヤマハンノキ、ドロノキハムシはポプラ類と、各樹種の植栽地の増大と密接に関連した発生のように思える。なおオオスジコガネ(スジコガネを含む)は、風害後の大面積にわたる裸地化によって密度を異常増大したとみられ、森林の成立、うつ閉の進展にともなって、しだいに発生は減少していくものと予想される。

6) このほか注目すべき害虫の発生としては、トドマツノタマバエ(42~45年、白老、浦河、倶知安などで大発生)、マツバノタマバエ(45年ころ道南の七飯、亀田にはじめて侵入)、マツツマアカシムシ(41年前後より江差、桧山その他日本海沿い、日高沿岸の海岸砂防林で被害めだつ)、マツノシンマダラメイガ(40~44年、函館でヨーロッパアカマツなど53ha全滅)、オオトラカミキリ(42年苦小牧、45年森で発見、前者は300ha、後者は25ha、激害地は皆伐)などがあげられよう。

終りに、このような害虫の発生情報の収集、整理に努力された各関係機関の担当者へ深く感謝するとともに、今後とも一層のご協力をお願いしたい。

(林業試験場北海道支場)